四国ドック株式会社

船舶製造業（船舶の新造）

〒760-0065
香川県高松市朝日町1-3-23
代表TEL／087-851-9021
FAX／087-851-9373
http://www.shikokudock.co.jp/

●設立　1955年（昭和30年）
●社長　代表取締役社長／宗田 勝
●資本金　3億5千万円
●社員数　148名
●基本給　大学院了　210,000円
大学卒　200,000円
高専卒　180,000円
（2019年4月実績）

●休日休暇　土曜、日曜、祝日、年末年始、夏期休暇
ゴールデンウィーク休暇
（当社カレンダーによる 年間休日124日）
●勤務地　本社（高松市）
●福利厚生　各種社会保険完備、慶弔災制度、表彰制度、
独身寮、社宅、退職金制度

▶インターンシップの受入れ／可
▶大学生アルバイトの受入れ／不可
▶採用担当者連絡先／
住所／〒760-0065　香川県高松市朝日町1-3-23
担当部署／業務統括部　総務部
採用担当者連絡先／087-851-9021
mail／soumu@shikokudock.co.jp

高松造船所として昭和2年に創業し、その後昭和30年に四国ドック株式会社として設立しました。お客様や地域の皆様に愛されながら高松で船造りに邁進し、昭和39年からは、三井造船株式会社（現株式会社三井E&Sホールディングス）のグループ会社として事業を継続しています。

Voyage to our future　One for all, All for one

造船所としては非常に珍しく県庁所在地の中心部にあり四国の玄関と言われる高松駅からすぐの場所に位置する「四国ドック株式会社」。偶然通りがかった市民が大きな船体を見つけ、カメラを向ける姿も街の風景の一部です。

台風など気象変動が少ない気候が造船に向いている瀬戸内海は“造船銀座”とも呼ばれていますが、これだけ市街地から近い場所にあるのは当社だけと言われています。

現在はばら積み貨物運搬船“バルカー”と冷凍冷蔵貨物運搬船“リーファー”を主力製品として造船事業を展開しています。“リーファー”については、これまで培ってきた高度な技術と豊富な経験を活かして、累計74隻という世界でも随一の建造実績を積み重ね多くのお客様から高い評価をいただいています。また貨物艙容積世界最大の自社記録をさらに更新し、世界一の最新鋭リーファーも完工しました。

また近年では地球環境保護の取組みとして、低燃費はもちろん優れた環境性能を有する船舶の開発に対して、造船業界は極めて重要な役割を担っています。こうしたことを踏まえ四国ドックでは載貨重量40,000MTを超えるハンディサイズバルカーの開発に力を注いでいます。

業務統括部 営業部
中村 与夢さん（2012年入社）

三井E&Sホールディングスに入社後、グループ企業である四国ドックで営業に携わっている中村さん。新しい船の受注から建造、完成までお客様と会社の窓口となっています。受注まではお客様のニーズを把握し、マーケットの情報も常にチェックしながら提案を行っています。

「造船の営業は一般的な商品の販売と違い、長期間かけて信頼関係を構築できるかが大切だと考えています。紙の契約書が数年を経て巨大な船となって動き出す瞬間の感動はこの仕事ならではではないかと思います」と仕事の楽しさを教えてくれました。また「四国ドックは少数精鋭。1人1人で考え、意見を言える雰囲気があります。若くても自分の裁量で仕事に携われる職場ですし、チームで仕事を進めていくので新人でも気負うことなく成長できると思います」とメッセージをくれました。

造船統括部 造船工作部
船殻・塗装課
湯浅 将吉さん（2010年入社）

湯浅さんは大学時代にインターンシップを利用した際に、社内の雰囲気が良く楽しく仕事が出来そうだったことが入社のきっかけになりました。造船に関して全く知識がなかったこともあり初めて目にした船の大きさは圧巻だったそうです。担当している工作部は現場作業員の仕事をいかに効率的に進行できるかが重要な仕事です。現場と設計・資材部門をつなぐパイプ役ともいえる立場を担っています。船を造るにはまずお客様の要望を踏まえて基本計画を行います。図面を確認する際、工作部も立ち会って構造を確認し、溶接の難しい場所などを指摘。作業が円滑に行えるように提案をします。先の先、またその先の事を見越した判断が必要となります。現場が動き始めると想定外の事象もありますが迅速かつ柔軟に対応することが求められます。そのためには常日頃から社内でのコミュニケーションが大切だと感じています。

設計統括部 基本設計部
森本 貴宏さん（2016年入社）

幼いころから海が好きで、船に関わる仕事がしたいと考えていた森本さん。長崎総合科学大学の船舶工学科に進学し、地元香川で船に携われる四国ドックに入社しました。設計部の中でも、「基本設計部」という部署に所属しており、計画計算・性能計算を担当しています。主な仕事内容はどのような船にするかという基本計画です。船主殿とやりとりをして船の主要目を決定していき、それを基に後の設計を行うため設計の中でも重要な作業です。また基本計画においては多くの部署との連携が必要になります。大学で専門知識を学んできたつもりでも、実際には知らないことばかりで勉強、勉強の毎日です。また船の引渡し前に行う海上試運転には必ず乗船します。実際に動いている船が問題なく走ったときの気持ちは何事にも代えがたいものです。尊敬する先輩のような基本設計者になることが夢です。

代表取締役社長
宗田 勝

仕事は「とにかく楽しくやろうよ」

四国ドックは日本国内でも珍しく県庁所在地の中心部にある造船所です。市街地へも近い立地条件ですが、その為他の造船所に比べると非常にコンパクトな造船所です。限りあるスペースで大型の船を造るために、多くの協力企業の皆様の力に支えられています。

造船業に馴染みがないという印象を持たれる方も多いかもしれません。しかし様々な原料、材料、食料、燃料など現在の輸出入の99・7%は船による輸送で成り立っているのです。皆さんの目にするもの殆どは船による輸送が関わっているのです。

Executive／宗田 勝
四国ドック株式会社
代表取締役社長

全長約190mの冷凍冷蔵貨物運搬船〝リーファー〟を建造するには特殊な技術を必要とするため、世界でも四国ドック以外にあまり有りません。

一隻の大きな船が完成するまでには数ヵ月に亘る時間と多くの人間が関わっています。お客様をはじめ、多くの協力企業の皆さん、また社員全員が一丸とならなければ造り上げることはできません。先日のワールドカップラグビーのように〝One for all, All for one〟の気持ちで人と人とのつながりこそが大切であると考えています。

人材育成に関しては上司や先輩社員が講師となって行う社内研修に加え、外部講師によるセミナーなども行っています。社員の皆さんには「とにかく楽しくやろうよ」と言っています。例えば会議にしても発言しないことには始まりません。立場の上下はあまり意識せず横一列だと考え、常に横を見て話すことを心がけています。

知識、技術などは経験と共に後からついてくるもの。とにかく元気で快活な人、コミュニケーションができることが大事だと思います。当社には製造だけでなく様々な部署があります。その中できっとあなたが輝ける場所が見つかると思います。

当社の揺るぎない企業理念とS・H・I・K・O・K・Uの七文字で導く経営姿勢のひとつひとつに込めた熱い想いで、お客様や社会に役立つ企業であり続けたいと考えています。私たちの仲間になってもらえることを楽しみにしています。